

保険業界におけるデジタルエコノミーの未来

ブロックチェーン

技術の活用と保険業界の未来②

【第3回】

分散型台帳技術であり、決済、情報管理、契約管理において有用なブロックチェーンが、世界各国の保険業務の改革に活用されている。前回記事では、P2P(ピアツーピア)保険、パラメトリック保険、マイクロインシュランスといった比較的先進的形態の保険業務を事例に、ブロックチェーンの優位性を紹介した。新たな業務分野を確立する際、可能な限り先端的なデジタル技術を活用しようとするのは自然な流れであろう。同時に多くの伝統的保険会社も、新商品や新サービスにブロックチェーンを適用し優位性を調査し、自社の商品・サービスに役立てようとしているようだ。そういう意味では、新旧含めた全ての保険会社にとってブロックチェーンは検討に値する技術である。前回に引き続き、前記のサービス形態におけるブロックチェーンの活用について深く考察することとする。

1. 本来のP2P保険実現に向けた動き

前回は解説したブロックチェーン事例としてのP2P保険について、さらに詳細を説明する。(1)概要 P2P保険は、SNS(ソーシャルネットワークサービス)の発展とともに進化しており、世界的には2010年ごろに現在のデジタル型P2P

P2P保険は、SNS(ソーシャルネットワークサービス)の発展とともに進化しており、世界的には2010年ごろに現在のデジタル型P2P



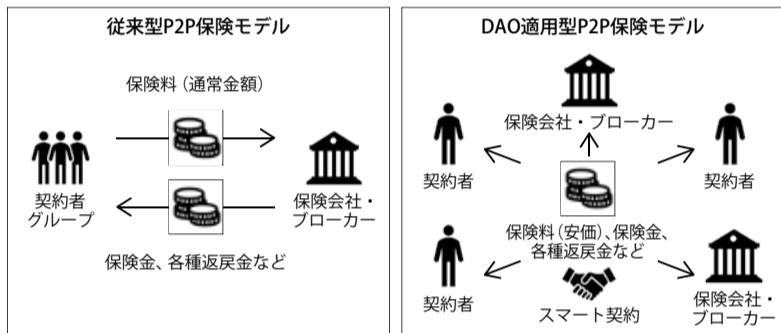
【監修】 コグニザントジャパン 金融事業部ディレクター

高橋 正敏



【執筆者】 コグニザントジャパン 金融事業部マネージャー スチヨンド・チャタルジ

図 P2P保険業務におけるDAO活用イメージ



出典：コグニザント・ジャパン 保険コンサルティング部門

ループを作って、ペット保険、自動車・バイク保険、健康保険などを提供するボート・バイ・メニ(Boat by Many)も同様のケースである。(2)ブロックチェーンの活用

ここで従来型のP2P保険と、ブロックチェーンを活用した場合のP2P保険の形態を比較してみよう。図をご覧ください。

P2P保険とは、一般的な保険と異なり、基本的に大きな費用が掛からないタイプ(分断型)の保険である。システム投資もさることながら、保険料についても大きな負担は伴わない、そういうタイプのサービス形態だ。そのような新しい形態と言われるP2P保

想に、より近付くことが可能になることがご理解いただけると思う。(3)DAOとは何か

図では、従来型P2P保険と比較して、新しい形のP2P保険を実現させる、DAOという考え方を示している。DAOとは、Decentralized Autonomous Organizationの略で、中央集権的ではない(分散型)自律的に動作する組織という意味である。保険契約者、保険会社、ブローカーが保険料払い込みを行ったり、契約を締結したり、保険金を払うなどの取引を行うが、それらを直接、当事者同士で実行できるようにシステムの設計されている機能のことを示している。

この場合、基本的な対応としては、保険金詐欺に関するインシデントを収集し、一定の傾向が把握できる形で保管することである。従来型の中央集権的なデータベースを構築することが一般的であるが、これをブロックチェーン環境に置き換えて構築すると有用性が高まる可能性がある。

ブロックチェーン上で複数の参加者間で情報連携する。それにより、支払い業務のスピードと正確性を向上させることが可能になる。業務プロセスに複数の関係者の情報をまとめ上げていくことが必要であり、例えば大手保険会社で、ローカル企業、自治体、医療機関と情報連携を推進して保険金支払い業務を効率化させるという動きがある。

前述のスマートコントラクトにより、企業の監査対応は格段に効率的になるだろう。ブロックチェーン上で実行される書類のやりとり、契約作業の自動化には、不正が関与する余地が極めて少なくなり、契約業務のリスクは十分に証明可能なものとなる。

企業としての信頼性を向上させ、同時に監査対応業務に割りリソースを削減する。それは企業活動としては理想的なものと言える。(3)保険金支払い対応

最後は、保険業務プロセス向上において常にフォーカスされる、保険金支払いに関するブロックチェーンの活用である。保険金支払いのペーパー化、自動化は以前から計画され実行に移されている。ブロックチェーンで注目されるのは、さらにその自動化を推し進めることが可能な点にある。

保険会社の業務改革を本業とする筆者としては、ぜひとも自社のIT戦略の中に、ブロックチェーンの活用を加えていただきたい。銀行や証券会社と比較して、保険会社は、ブロックチェーンの活用にとついでに遅れをとっていると思われるが、これは、チェンジを待つより、チェンジをドライブしていく心構えがこれからの保険会社には求められるのではないだろうか。ブロックチェーン協会に参加する、意見を聞く、インハウスでワーキンググループを策定する、地道な情報収集を行うといった、実現に向けた分析から実装までの道は、未来の成功につながるものと思われる。

3. ブロックチェーンと保険業務の発展

以上、多くの利点から、今後、保険業界において、ブロックチェーンを研究し、活用につなげていく流れが加速していくことは間違いないだろう。ブロックチェーン協会の設立は、同技術の実用化を推進することにつながる。また、保険業界では、ブロックチェーン保険イニシアチブ(B3i)という組織があり、業界の発展に大きく寄与することになるだろう。

保険会社の業務改革を本業とする筆者としては、ぜひとも自社のIT戦略の中に、ブロックチェーンの活用を加えていただきたい。銀行や証券会社と比較して、保険会社は、ブロックチェーンの活用にとついでに遅れをとっていると思われるが、これは、チェンジを待つより、チェンジをドライブしていく心構えがこれからの保険会社には求められるのではないだろうか。ブロックチェーン協会に参加する、意見を聞く、インハウスでワーキンググループを策定する、地道な情報収集を行うといった、実現に向けた分析から実装までの道は、未来の成功につながるものと思われる。

【スチヨンド・チャタルジ氏のプロフィール】大手コンサルティングファームにて、10年以上にわたり保険業、小売業、ロジスティクス業界向けにコンサルティング業務に従事。それ以前は、世界的ソフトウェア企業にて欧州、中東、日本、インドでサービス提供を実施した。現在は、日本国内で保険会社を対象に業務プロセス改善、ITテリバリー関連のコスト削減支援を行っている。サプライズチェーン領域でMBAを取得。またLOMA(米国生命保険管理学会)経営士資格を保有。英語、日本語、複数のインド系言語に精通しており、クライアントとのコミュニケーションの高度に定評あり。コグニザントジャパン保険コンサルティング部門に所属。